

I 研究主題と副題

教育研究所を核として、町全体が一体となった授業力向上の取組
～ＯＪＴの機能を生かし、研究員一人一人のスキルアップを目指した研修を通して～

II 主題設定の理由

【 次期学習指導要領が目指す学校教育、ＯＪＴが求められる理由 】

これまでの我が国の学校教育の実践や蓄積を活かし、子ども達が未来を切り拓くための資質・能力の育成を目指して、新学習指導要領が改訂された。学習指導要領改訂の方向性として、「何ができるようになるか」「何を学ぶか」「どのように学ぶか」が重視され、新しい時代に必要となる資質・能力として、「学びに向かう力・人間性」「生きて働く知識・技能」「思考力・判断力・表現力」の三つが挙げられている。急激に変化する社会の中で、学校教育における課題は多様化・複雑化しており、学力の低下と格差の拡大、貧困問題、学校の小規模化、指導技術の伝承など、早急な対応が求められている。宮崎県においては、４０歳代から５０歳代の教職員が全体の約７割を占めるという状況にあり、退職者数も今後、徐々に増えていくことが予想されている。そこで、後輩教職員だけでなく、全ての教職員の人材育成という視点から、ＯＪＴの必要性が強く求められている。宮崎県のＯＪＴの考え方は下記の通りである。

ＯＪＴとは、日常の職務を通して、教職員として必要な知識や技能や態度を組織的・計画的・継続的に高めていく取組である。ねらうところは、「個人の成長」と「学校の課題解決」である。管理職や先輩教職員が後輩教職員へ という一般的なＯＪＴに加え、同僚間の教え合いや後輩教職員と先輩教職員との教え合い等も含めるものとする。

（「学校における ＯＪＴ推進のための手引」より）

【 本町及び教育研究所の実態 】

高鍋町は宮崎県の中央部に位置し、県内で最も小さな自治体である。西都・児湯地区の中核として、行政・教育・商業などの機能が狭い地域に集中するため、ついた呼び名が「コンパクトシティ高鍋」である。「歴史と文教の城下町」とも呼ばれ、高鍋藩主の秋月種茂公が創設した「明倫堂」は、多くの優秀な人材を輩出している。本町の教育研究所の運営方針の中に「研究推進にあたっては、実践過程を重視し、その成果を踏まえ児童生徒の実態・変容を含めたきめ細かい記録をするように配慮する」「共同研究の成果を、教育研究報告書及び高鍋町教育職員研修会等において発表する」とある。つまり、教育研究所の研究は町内の児童生徒に還元し、本町すべての教職員の授業力向上に結び付くことを目指している。

今年の研究員のメンバー構成は、若手職員３名、中堅職員２名、ベテラン職員３名であり、バランスの取れたものとなっている。特に３名の若手職員のスキルアップを目指すことは、ＯＪＴの視点からも求められる。また、若手職員に自身の実践や経験を伝えることは、中堅・ベテラン職員が成長する意味でも大切だと考えた。それぞれの学校だけでなく、研究所においてもＯＪＴの機能を最大限生かして、研究員一人一人の満足度を高めながら、スキルアップを目指すことで、町全体の授業力向上の一翼を担うことを目標としている。

本町では昨年度から「高鍋町小・中学校教科・領域別部会」（以後、「教科・領域別部会」とする）を設置し、小中９年間を見通した学習内容や指導方法等について、町内４校の小・中学校の全教職員がそれぞれの教科・領域に分かれて研究を進めてきた。今年度は、「コグトレ・ＬＤ部会」を新設し、合計１０の部会で研修を進めている。教育研究所としてもこれらの部会に積極的に関与し、研修がより高まることを目指したい。「教科・領域別部会」でもＯＪＴによる授業改善を目指しており、「教科・領域別部会」とタイアップを図り、最終的に町内の教師一人一人が自ら教材研究や教材開発に取り組もうとする意欲を喚起する役割を、今年度の教育研究所は果たしていきたい。

【 GIGAスクール構想と「授業づくり研修会」の関連 】

1人1台端末環境は、もはや令和の時代における学校の「スタンダード」であり、特別なことではありません。これまでの我が国の150年に及ぶ教育実践の蓄積の上に、最先端のICT教育を取り入れ、これまでの実践とICTとのベストミックスを図っていくことにより、これからの学校教育は劇的に変わります。この新たな教育の技術革新は、多様な子供たちを誰一人取り残すことのない公正に個別最適化された学びや創造性を育む学びにも寄与するものであり、特別な支援が必要な子供たちの可能性も大きく広げるものです。
～令和時代のスタンダードとしての1人1台端末環境～ 《文部科学大臣メッセージ》

新型コロナ禍にあって、オンライン授業、授業動画の配信など、改めて最先端のICT教育の必要性が求められるようになった。今年度の教育研究所の研究内容を検討する際にも、必然的にこの話題が中心となった。改めて各都道府県教育委員会が配信している授業動画を確認する中で、配信する技術はもちろんのこと、それ以上に配信する学習内容や配信者の授業スキルが重要であることが浮き彫りとなった。つまり、教師一人一人の日々の授業力の向上が不可欠なのである。田村学氏は教師力（授業力）とはイメージする力であると規定している。「子どもたちが真剣になって学習課題に向かい、本気で学び合う子ども中心の授業イメージを持っている教師もいれば、子どもの意識や思いを軽視して、強引に一方的に教え込む授業イメージをもつ教師がいないわけではない。目指すべきは、クリアーで、かつ、質の高い授業イメージをもつことであろう」と示唆を与えている。田村氏はイメージ力を高めるために、次の3点を日々心掛けることが大切であると述べている。

- ・ 自ら授業を実践し、多くの人に参観してもらう・・・（行 う）
- ・ 多くの優れた授業実践を参観する・・・（見 る）
- ・ 日々の授業実践について語り合う・・・（語 る）

これまで教育研究所では、研究員の授業動画を使った実践報告、本町の職員も参加する「授業づくり研修会」を実施してきた。更に今年度は4回の「授業づくり研修会」にGIGAスクール構想の要素を加味することにした。具体的に下記のような方針を決めた。

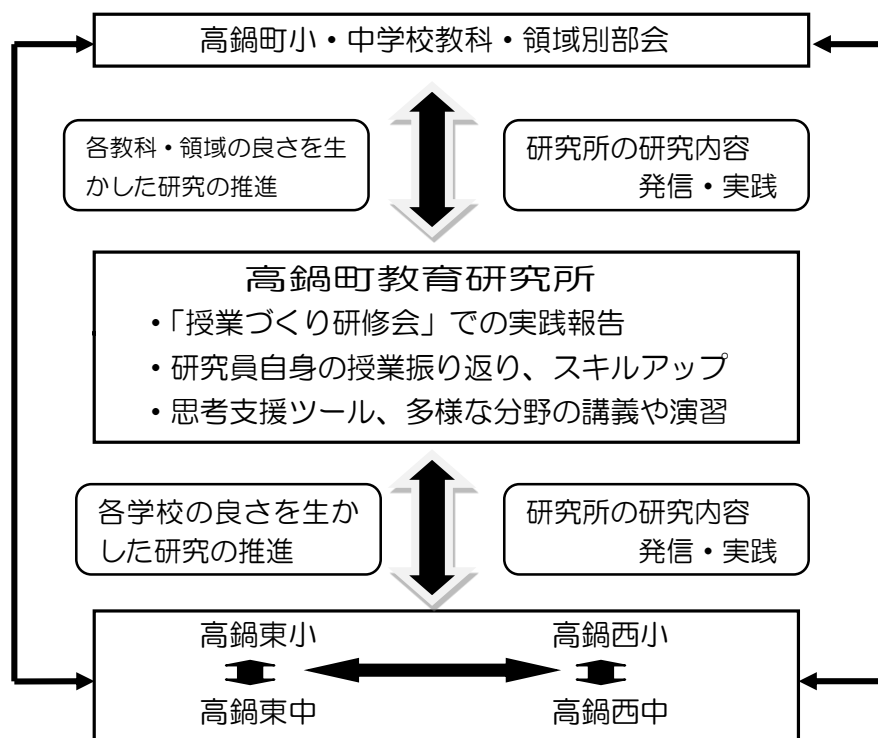
- ・ 「授業づくり研修会」は4校が持ち回りで担当する（報告者、司会者の割り当ても）。
- ・ 町内すべての学校に「授業づくり研修会」の意義を伝え、多くの参加者を募る。
- ・ Zoomにより「授業づくり研修会」をライブ配信し、後日、DVDにまとめたものを、すべての学校に配付し、研修等に役立ててもらふ。
- ・ 毎回の「授業づくり研修会」の内容は、「研究所便り」を作成して広く周知する。

研究員は4回の「授業づくり研修会」のために、自身の授業を見直して授業動画を含めた実践報告の準備を行う。また、研修会における司会や意見交換、「研究所便り」の作成等を行うことにより、必然的に授業力が向上することを目指している。「授業づくり研修会」以外の研修においては、積極的に「思考支援ツール」を活用した授業づくりを紹介、実践していく。また、ベテラン職員、本町の教育委員会による多様な講義・演習に取り組むことで、本当の意味の研修、やらされるのではなく、自ら進んで研修に向かう意欲を喚起していきたい。このような取組を行うことで、研究員一人一人の研修への満足度を高め、個々のスキルアップにつながると考えた。更に「教科・領域別部会」や各学校の研修（授業力向上）においてリーダーシップを発揮できるものと期待している。

Ⅲ 研究仮説

「授業づくり研修会」を中心として、OJTの機能を生かしながら、研究員一人一人が自分の授業を振り返りスキルアップを目指すことで、研究所を核として町全体が一体となった授業力向上の取組が期待できるであろう。

IV 研究組織



V 研究の実際

今年度の研究については、前述のように「高鍋町教育研究所」をいかに有益なものとするか、研究員一人一人のスキルアップ、そして、「研究員をやってよかった」という成就感を高めることを第一の目標とした。二つ目に「授業づくり研修会」(A 研修)を町内の先生方にとって身近なものとし、各学校での授業研修の材料として位置付けてもらうことを目指した。また、研究員のニーズに応えるため、教科、道徳、ICT など多分野における基本研修(B 研修)を準備した。講師としては、川上教育長先生、本町の指導主事や指導教諭を活用した。また、積極的に「教科・領域別部会」とリンクできるように心がけた。このような主旨のもとで、より具体的で日々の授業に活かせるような研修内容を考えた。研究の柱は大きく3つである。

「研究の柱①」 高鍋西中学校スタイルによる指導案づくり

この指導案形式は、平成30年度の重点支援実践報告会(高鍋西中学校)の際に使われたものである。めあてと学習課題の違いやまとめや振り返りをどのように行えばよいのかを明確に示している。大分県教育委員会のものをベースに、高鍋西中学校独自の工夫を加えてある。現在でも、高鍋西中学校のスキルアップ授業では、この形式で指導案作成を行っており、研究員の指導案もこの形式で作成してもらうことにした。

○○科学習指導案(○年○組)「単元名・題材名」指導者 ○○○○	
ねらい	・目的と手立てを明らかにして、教師の立場で提示します。 ・「～理解させる」「～考えさせる」などの記述にします。
めあて	・ねらいを生徒の立場で示したもので、本時の学習の見通しを持たせます。 ・「～調べよう」「～しよう」などの記述にします。
課題	・この時間に解決すべき事柄を示します。 ・「なぜ～なのか」「どうしたら～できるか」などの疑問の形で記述にします。
展開	・本時の学習の流れを、生徒の立場で簡潔に示します。 ・「～つかむ」「～まとめる」「～考える」などの記述にします。 ・生徒の実態に合った学習の流れになるように気をつけます。 ・教える場面、話し合う場面、考える場面などを明確にします。 ・指導内容を精選し、わかりやすくテンポの良い授業を心がけます。
まとめ	・本時の課題に対する答えや結論とします。 ・「課題」に対する整合性を持たせます。
振り返り	・本時で学習したことを、次につなげられるような視点で示します。「定着や習熟の時間」も振り返りに該当します。

「研究の柱②」 授業づくり研修会（A 研修）のようす

研究員全員が自分の授業動画を撮り、授業の主旨や成果・課題について報告する研修会である。平成30年度に実施した経緯があるが、今年度は更に各学校へ実施日等を通知し、研究員以外の参加者が参加しやすい状況をつくった。また、コロナ禍の状態を考慮して、基本的に高鍋町中央公民館を会場とした。それぞれの担当の発表には、担当校の先生方の参加が多く見られた。今後更にこの発表内容が各校の主題研究等に活かされることが望まれる。なお、第4回目は令和3年1月20日（水）に高鍋東中学校の担当で行う予定である。

第1回	6月17日（水）	担当・・・高鍋西中学校	研究員以外の参加者	8名
・	中学3年生	道徳「アフリカのバッグ工場」	染矢直樹	指導教諭
・	中学1年生	国語「ニュースの見方を考えよう」	吉永夕貴子	教諭
第2回	9月16日（水）	担当・・・高鍋東小学校	研究員以外の参加者	15名
・	小学3年生	算数「表とグラフ」	江川将司	教諭
・	小学6年生	社会「貴族の生活～藤原道長～」	山下夏美	教諭
第3回	11月19日（木）	担当・・・高鍋西小学校	研究員以外の参加者	12名
・	小学2年生	国語「どうぶつ園のじゅうい」	江口姫歌	教諭
・	小学6年生	社会「天皇を中心とした政治」	釘村彰吾	教諭

「研究の柱③」 基本研修（B 研修）のようす

多様な講師の指導により、多分野の講義・演習を受けることで、研究員の見識を深め、日々の授業づくりに役立てる8回の研修を計画した。講義・演習のテーマは基本的に講師が決め、最後に質問や協議の時間を設定した。

第1回	5月14日（木）	講師 染矢直樹	指導教諭
→	今年度の研究内容について ～ 思考支援ツールを使って ～		
第2回	5月20日（水）	講師 染矢直樹	指導教諭
→	オンライン授業について ～ オンライン動画授業の視聴、Zoom について ～		
第3回	7月 9日（木）	講師 染矢直樹	指導教諭
→	授業づくり研修会について ～ 指導案の作成、発表の視点の絞り方 ～		
第4回	8月21日（金）	講師 川上浩	教育長
→	文章読解指導から考えたこと ～ 国語科の実践を通して ～		
第5回	10月15日（木）	講師 黒木秀一	指導主事
→	生徒が自信と意欲をもって数学に取り組む学習の在り方 ～学習モデルの構築～		
第6回	10月22日（木）	講師 池澤寛之	教育対策監
→	道徳教育の進め方 ～ 新・旧の道徳教育を比較しながら ～		
第7回	12月10日（木）	講師 染矢直樹	指導教諭
→	今年度の研究のまとめ① ～ レゴシリアルプレイを使って ～		
第8回	12月24日（木）	講師 染矢直樹	指導教諭
→	今年度の研究のまとめ② ～ タブレット（ロイロノート）を使って ～		

このように3つの研究の柱を設定することで、画一的な研修内容ではなく、研修のバリエーションを広げることを目指した。また、研究員が授業の流れを考える場面（指導案作成）、実際に自分の授業を振り返る場面（A 研修）、授業に使えるスキルを学ぶ場面（B 研修）を設定することで、確実に授業力が向上できるような工夫を行った。

1 高鍋西中学校スタイルによる指導案づくり

【 指導案 a 小学2年生 国語「どうぶつ園のじゅうい」 江口 姫歌 教諭 】

ねらい	時間的な順序を考えながら、内容の大体を捉えることができる。
めあて	正しいじゅんばんで、 <u>じゅういさんの1日</u> をしょうかいしよう。
課題	文章を正しい順序で並べるには、どうしたらよいのだろうか。
展開	① 「時間の順序に沿って紹介したい」という思いを持たせ、本時のめあてをつかむ。 ② センテンスカードを並べ替えながら、正しい順序を考える。(個人) ③ グループで順序を確かめ合い、そうなる理由を考える。(グループ) ④ 各グループの意見を比べ、正しい順序とその理由を確かめる。(全体)
まとめ	じゅんばんにならべる時は、 <u>じゅんじょ</u> をあらわすことばに <u>ちゅうもく</u> するとよい。
振り返り	次時からは本時で並び替えた順序に沿って、獣医さんの仕事の1日をまとめていくことを伝える。

【 指導案 b 小学6年生 社会「貴族の生活（藤原道長）」 山下夏美 教諭 】

ねらい	藤原道長について調べることを通して、平安時代の貴族の生活の様子を理解させる。
めあて	藤原道長について調べよう。
課題	なぜ道長は「私の思い通りにならないことはない」という歌をよめたのだろうか？
展開	① 貴族のくらしを振り返りながら、本時のめあてをつかむ。 ② 藤原道長が読んだ歌の意味を考え、本時の学習課題を設定する。 ③ 教科書の記述や資料集から学習課題の答えを考える(個人)。 ④ グループで話し合い、学習課題の答えをまとめる(グループ)。 ⑤ 各グループの意見を見比べ、学習課題の答えをまとめる(全体)。
まとめ	藤原道長は、娘を天皇のきさきとし、生まれた子が天皇になることで大きな力をもち、多くの土地などをもらって贅沢な暮らしをしていたから。
振り返り	大きな力をもった道長には悩みがなかったのかと問いかけ、次時の「貴族の願い」の学習内容につなげる。

指導案 a・b ともに、授業者は初めてこのスタイルで指導案を作成したわけであるが、この指導案の良さをしっかりと理解できている。まず、(ねらい)をわかりやすい形で(めあて)として、児童に提示している。このことによって、児童は本時の学習内容の見通しがもてる。また、(課題)を解決しようとする道筋の中で、最終的に本時の学習内容が(まとめ)に表れるようになっている。最後の(振り返り)において、次時の予告を入れることで、本単元の学習意欲を継続させている。このスタイルの指導案は、授業の流れを簡潔に示すことができ、授業で一番大切なねらいがぶれないという利点がある。各学校や教科独自の指導案スタイルがあると思うが、ぜひ、多くの先生方にこのスタイルの指導案にもチャレンジしていただきたい。

2 授業づくり研修会（A 研修）のようす

授業づくり研修会については、授業や発表内容を町内の先生方や保護者に伝えるため、発表した学校が担当者となり、「高鍋町教育研究所便り」を作成した。自分の授業や発表を振り返るだけではなく、研究所便りを作成するスキルも身に付けることを目的としている。研究所便りでは、行った授業の概要や視点等を示した。ここでは、第1回から3回目までの研修会のようすを、研究所便りを使って紹介する。

(1) 第1回授業づくり研修会（担当 高鍋町立高鍋西中学校）

高鍋町教育研究所便り(第2号) 令和2年 7月

第1回「授業づくり研修会」のようすを報告いたします

毎日、暑い日が続いております。新型コロナ禍の中でも、高鍋町の小中学校では概ね平常の学校生活が過ごせていることを、素直に喜びたいと思います。更に、保護者、地域の皆様のご支援に、心から感謝いたします。更に高鍋町全体の教育力を高めていきます。

さて、今年度の高鍋町教育研究所におきましては、研究員のスキルアップ、そして、町内の全職員の授業力向上を目指して、4回の「授業づくり研修会」を計画しております。第1回目として、6月17日（水）に、高鍋西中の研究員2名が実践報告をいたしました。その一部を紹介いたします。日々の授業の参考になれば幸いです。



（研修会のようす）

実践を通して…

○反省

（良い点）

- ・生徒の主体的、対話的な活動が取り入れられた。
- ・教材で学習したことを実際に体験させることができた。

（改善点）

- ・自分自身が、ICTを使いこなせていない。
- ・説明の時間が多すぎて、実践の時間が短い。
- ・今後はiPadを活用して、もっと効果的に実践させたい。

○道徳 「アフリカのバッグ工場」

発表者 染矢 直樹 指導教諭

- ・アフリカの支援をするために、現地にバッグ工場を作った仲本さんの活動を通して、自分らしい生き方とは何かを考えさせることを目指した。

→ 考え・議論する道徳、仲本さんと生徒の交流、教材を身近に感じさせる工夫など、新しい道徳学習のスタイルが提案された。

（国語の実践の反省）

○国語 「ニュースの見方を考えよう」 発表者 吉永 夕貴子 教諭

- ・情報活用スキルの習得を目指して、デジタル教科書の活用によりニュースを組み立て、グループごとに実際のニュースキャスターとなり発表する。
- テーマに沿ってニュースを編集する工夫、班活動による情報選択、ニュースキャスターの役割演技を含めた表現活動など、ICT活用と表現力の育成を目指した授業が提案された。

勤務時間外の研修会にも関わらず、各学校から研究員以外の8名の先生方も参加され、研究協議の中で活発な意見交換がなされました。Zoomによるライブ視聴にも数名の先生が挑戦いただき、オンライン授業の道筋を確かめることができました。

【発表者の感想】

- ・高鍋西中学校ではローテーション道徳が取り入れられており、学担以外でも道徳の授業を行うチャンスをいただいている。学年職員を中心に授業内容を相互参観しているが、更に小学校を含めた多くの先生方に発表することができ、大変に勉強になった。

- ・ 慣れないプレゼン作成を行うことにも、発表する機会があったからこそチャレンジすることができたと思う。また、日々の授業において「見せる授業」の意識をもつことで、生徒の興味を高めるような授業が展開できるようになった。

(2) 第2回授業づくり研修会 (担当 高鍋町立高鍋東小学校)

高鍋町教育研究所便り(第3号) 令和2年 10月

第2回「授業づくり研修会」のようすを報告いたします。

暑さも和らぎ、過ごしやすい季節になってきました。高鍋町の小中学校では、新型コロナウイルス感染対策を徹底しながら体育大会や運動会に向けて日々練習に励んでいます。保護者、地域の皆様には、今後も学校教育や学校行事へのご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

さて、今年度の高鍋町教育研究所におきましては、研究員のスキルアップ、そして、町内の全職員の授業力向上を目指して、4回の「授業づくり研修会」を計画しております。第2回目として、9月16日(水)に、高鍋東小の研究員2名が実践報告をいたしました。その一部を紹介いたします。日々の授業の参考になれば幸いです。



(研修会のようす)

○ 社会 「貴族の生活(藤原道長)」

発表者 山下 夏美 教諭

- ・ 藤原道長が詠んだ歌を紹介し、その歌が詠まれた理由を考えさせることを通して、藤原道長らの平安貴族の生活を理解させる授業を行った。
- 学習内容に対する興味・関心を十分高める手立てや学習問題の提示の仕方、調べ学習の進め方について協議を深め、指導法の共有を図った。

○ 算数 「表とグラフ」

発表者 江川 将司 教諭

- ・ 3つの表を1つの表に整理する方法を考え、分かりやすい表を作成する授業を行った。
- 問題の提示の仕方やワークシートの活用法、練習問題に取り組む時間の確保等について多くの先生方から助言をいただき、指導力の向上につながった。

勤務時間外の研修会にも関わらず、各学校から15名の先生方が参加され、研究協議においても活発な意見交換がなされました。少しずつではありますが、参加される先生方にとって自分の授業力向上につながるという意識が高まっているように思いました。

実践を通して……

○反省

(改善点)

- ・ 予想を立てるときや、まとめを考えさせる際に、児童の思考の時間をしっかりと確保できていなかった。
- ・ 話し合い活動に積極的に取り組ませる手立てを考える必要があった。
- ・ 習熟の時間の確保ができていなかった。練習問題等に取り組むことができなかった。

(改善案)

- ・ 授業の流れを見直し、指導内容の精選を行う。(グラフ作成に時間をかけすぎた。)
- ・ 個人思考→ペア→グループといった活動形態を活用する。

【 発表者の感想 】

- ・ このような機会があったからこそ、自分の授業を改めて見つめなおすことができた。また、質疑において多くの先生方から様々な意見を聞くことができ、大変有意義であった。
- ・ 2年目として初めて体験することばかりであり、自らの授業を見つめ直すきっかけとなった。今回の経験を活かして、更に授業力に磨きをかけたい。

高鍋町教育研究所便り(第4号) 令和2年12月

第3回「授業づくり研修会」のようすを報告いたします。

月日が流れるのは早く、今年も残りわずかとなりました。今年はコロナ禍の影響で、臨時休校や学校行事の縮小等もあり大変な一年でしたが、校内での感染対策のおかげで、第2学期の終業式を無事に迎えようとしています。誠にありがとうございました。来年もどうぞよろしくお願いいたします。

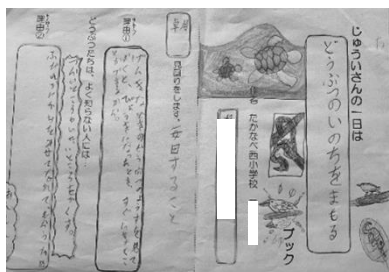
さて、今年度の高鍋町教育研究所におきましては、研究員のスキルアップ、そして、町内の全教員の授業力向上を目指して、年間4回の「授業づくり研修会」を計画しております。第3回目として、11月19日(木)に、高鍋西小の研究員2名が実践報告をいたしました。その一部を紹介しますので、日々の授業の参考になれば幸いです。



(研修会のようす)

○ 2年 国語「どうぶつ園のじゅうい」 発表者 江口 姫歌 教諭

- 動物園の獣医の1日を紹介した文を、時間の順序を表す言葉に気を付けて読み、自分の知識や経験と比べて感想文を書く単元。⇒ 児童の学習意欲を高めるための様々なしなかけ(単元のゴールの明確化や文章の内容を紹介する「紹介ブック」の作成等)を用いた授業の実践報告。



(児童の作成した「紹介ブック」)

【発表を振り返って】授業で作成した「紹介ブック」を町内の小中学校や町立図書館に置いていただき、300名近くの方に読んでいただいたことを紹介することができた。今回の発表がきっかけで、新たな学校間での交流計画も生まれ、発表をした意義を感じた。自分では気が付かなかった点についても指導をいただき、大変有り難かった。今後も子どもたちが楽しみながら授業に臨み、力をつけていけるように授業改善をしていきたいと思う。

○ 6年 社会「天皇を中心とした政治」 発表者 釘村 彰吾 教諭

- 飛鳥時代と奈良時代に活躍した人が行ったことを比較し、聖徳太子が目指した国づくりがどのように変わっていったのか考えさせる授業。⇒ 知識・技能・思考力・判断力・表現力等を身に付けさせるための小テストの取組や資料を用いた児童作品の活用についての実践報告。

【発表を振り返って】子どもたちが意欲的に発表をしたり、グループ活動ができたりする授業の手立てについて、先生方から様々な意見をいただき、新たな気付きばかりで大変勉強になった。中学校の先生方には、中学校の立場でアドバイスをしていただいたので、小学校で学習していることがどのように中学校での学習につながっていくのかが良く分かった。中学校進学を意識した授業実践を今後も続けていきたい。

勤務時間外の研修会にも関わらず、各学校から多くの先生方が参加され、研究協議においても活発な意見交換がなされました。この研修会のようすは各学校にDVDとして配付されており、校内研修や「教科・領域別部会」において積極的に活用されることを願っています。

【 発表者の感想 】

- 資料のまとめ方など、発表に向けての準備を通してたくさんの学びがあった。また、どんなことを意識して授業づくりを行うべきかなど、自分の授業の良い点や悪い点をたくさん知ることができ、とても勉強になった。
- 自分の授業をビデオに録ることで、客観的に授業を振り返ることができた。日々の授業改善に活かしたい。また、多くの先生方から意見やアドバイスをいただくことで、新たな視点をもって日々の授業に臨むことができた。西中スタイルの指導案を書くことで、授業展開のどの部分に重点を置いて進めるべきかが把握できた。

3 基本研修（B研修）のようす

B研修においては、日々の授業で活用できることを講義・演習の形で学ぶ場を設定した。8回の研修の中で、4回は授業づくりに関すること、残りの4回は思考支援ツール、ICT（Zoom、ロイロノート）、レゴシリアルプレイなどの教育教材に関するテーマを中心に研修を深めた。

（1）授業づくりに関する講義・演習



（川上教育長先生による講義）

研究員の感想にあるように、教科・道徳において、これからの教育活動を見据えた有意義な研修内容であった。また、川上教育長先生の国語の授業、池澤寛之教育対策監の道徳の講義には、研究員だけではなく、教科・領域別部会（道徳部会）のメンバーも参加するなど、これまでにない広がりがあった。黒木指導主事の数学科におけるノート指導の在り方については、数学科にとどまらずすべての教科において、丁寧にノート指導する必要性を再認識させられた。今

年度は、町内の人材を活用したものであったが、今後更に研究員のニーズに応じて、他分野の講義・演習も計画すべきだと感じた。また、このような貴重な機会を研究員だけでなく、町内全体に広く周知して、もっと参加者を募る手立てを工夫していきたい。

（2）教育教材に関する講義・演習



（ピラミッドチャートを使ったまとめ）

思考支援ツールやレゴシリアルプレイ、タブレットの活用については、これらを使うことが目的ではなく、授業のねらいを達成するための補助であることを忘れてはならない。ただし、これからの教育活動を進める中で、有効に活用することで学習効果が高まり、より授業レベルを向上させることが期待できる。まず、どのように活用できるのか、研究員自身が体感することが肝要である。そのためにも、教育研究所を

含めた環境整備をさらに充実させる必要がある。ICT活用は計画的に研修の機会をつくり、多くの先生方が活用できるようにすべきである。

【 講義・演習を受講した研究員の感想 】

- ・ 思考支援ツールやオンライン授業のやり方など、日々の授業で使えるものを取り扱っていただいたので大変参考になった。授業で学習課題などを考える際に活用できた。
- ・ 第2・4回の研修は非常に実践的で勉強になった。講話だけでなく演習を取り入れることで、より実践しやすいように感じた。資料等も実際の授業で使ってみたいと思う。
- ・ 児童・生徒に考えさせる時間を設定する際、ICTの活用やノート指導を通して、思考の流れを振り返らせることの大切さを学んだ。コロナ禍でオンライン授業が求められている時だったので、Zoomの詳しい扱い方を学べたことはとても参考になった。今後、一人一台のタブレットが提供されるので、ICTの効果的な使い方を更に学びたいと思っている。

Ⅵ 研究の成果と課題（成果：○ 課題：●）

コロナ禍のために多々制限される場面もあったが、今年度の研究の目標は「高鍋町教育研究所」の有益性及び研究員一人一人の授業力を高めることであった。研究の3つの柱を中心に、研究員の自己評価（5段階）を踏まえて、本年度の成果と課題を明らかにしてみたい。

（研究の柱1） 高鍋西中学校スタイルによる指導案づくり	
○	研究公開の高鍋東中以外は、すべての研究員がこのスタイルで指導案を作成した。ねらいとめあて、学習課題とまとめの整合性がわかったとの声があった。
●	初めて書く場合、これまでの「めあてとまとめ」の關係に戸惑う声があった。最初にこのスタイルで流れを考えて、それぞれの形（各校のスタイル）に整理する方法もあると思う。
（研究の柱2） 授業づくり研修会（A 研修） 研究員の評価 4.5	
○	自分で資料を作り報告する、他の研究員の報告を聞くという両面の学びを実現できた。小中学校の校種及び教科の枠を超えて、授業づくりを真剣に協議する機会を設定できた。
●	授業の視点については、当初「思考支援ツールの活用」を提案したが、基本的に各研究員の裁量に任せた面があり、研究の視点が定まらない部分があった。
（研究の柱3） 基本研修（B 研修） 研究員の評価 4.8	
○	多様な講師による多方面の講義・演習が計画され、研究員の授業力向上に直接的に関与できたと考える。教科・領域別部会（道徳部会）のメンバーが参加などの広がりもあった。
●	研究員のニーズに、更に応える研修が準備できるとよかった。各校の管理職、高鍋高校や高鍋農業高校の先生方など、専門性の高い講師に来ていただくと面白いのではないかな。
（その他） 研究内容の広がり	
○	授業づくり研修会の周知と実施、研究所便り・DVDの配付等を、計画的に行うことができた。高鍋東・西中学校においては、職員研修の中に取り入れる場面も見られた。
●	授業づくり研修会の参加者も増えており、研究所の研究内容に関心を持つ先生方が増えてきた。ただし、もっとPRが必要だし、高鍋町全体の授業レベルを向上させるためにも、更に具体的で日々の授業に役に立つ内容を提案することが求められる。

【 引用・参考文献 】		
・ 「新たな学びに関する教員の資質向上のためのプロジェクト」		次世代型教育推進センター
・ 「授業を磨く」	田村 学	東洋館出版
・ 「シンキングツールを学ぶ」	杉山 浩二	ロイロノート
・ 「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料		国立教育政策研究所
・ 「平成30年度 教育研究報告書」		高鍋町教育研究所
【 研 究 同 人 】		
所 長	川上 浩	研究指導員 黒木 俊和
教育対策監	池澤 寛之	指導主事 黒木 秀一
高鍋東小	山下 夏美	江川 将司
高鍋西小	釘村 彰吾	江口 姫歌
高鍋東中	日高 憲一郎	渡辺 美妃
高鍋西中	染矢 直樹	吉永 夕貴子